

## IV-28 地域構造からみた過疎イメージについて

秋田高専 正員 折田仁典

### 1・はじめに

近年の社会は複雑、高度化し、さらに人間の価値観の多様化もあいまって、以前と異なり、物事に対する“イメージ”という概念が重要視されてきている。例えば、商品におけるイメージは販売上重要な要因であり、また観光地が持つイメージは観光客の入り込みを左右するものと思われる。このようなイメージは居住空間としての都市、地域にとっても重要で、特に過疎地域では地域の振興、活性化という面において地域イメージの改善は大きな課題となっている。本報告は、過疎地域における地域イメージを地域構造の視点から検討を加え、あわせて、過疎問題からの追求をも試みようとするものである。

### 2・解析対象地域及び解析方法

過疎地域は地域構造から次の3タイプに分類できる。(1)都市近郊型過疎地域(Type I)、(2)地域間接続型過疎地域(Type II)、(3)閉鎖型過疎地域(Type III)

解析対象地域は上述の3タイプの過疎地域について行うこととし、秋田県雄和町(Type I)、増田町(Type II)、東成瀬村(Type III)を選定した。分析では、まず過疎のイメージをとらえるために、次に示す8つのコンセプトを確定し、SD法を適用した。確定したコンセプトは、(1)公共、生活施設、(2)公共交通期間、(3)産業、(4)人間性、(5)自然環境、(6)道路施設、(7)地域の中心地(商店街)、(8)地域全体のイメージである。ここでは、おもにコンセプトにおける地域差、あるいは地域差の顕著な形容詞対について検討した。ついで、3地域における過疎問題(24項目を設定)についてDEMATEL法を用いて構造化した。これは、現在抱えている過疎問題自体に地域差があるか、さらに過疎問題と地域イメージとはどのような関係にあるか、などを探るためである。なお、過疎イメージの分析に用いたサンプル数は、雄和町104票、増田町78票、東成瀬村91票であり、過疎問題については昭和62年実施した調査結果を用いた。

### 3・分析結果

#### 3-1 地域構造からみた過疎イメージ

評価スコアをもとに、各コンセプト別に3地域のイメージの差異を検討したところ、非常に地域差の現われるコンセプトがいくつかみられた。それは「公共・生活施設」、「中心地(商店街)」、「自然環境」などのコンセプトである。図-1はこれらのうち「公共・生活施設」について示したものであるが、「都市近郊型」と他の2地域との差異が顕著に現われている。また、「道路施設」では、評価スコアの値の差が前述のコンセプトほど大きくはないが、「都市近郊型」のみ、いずれの形容詞対でもプラスの評価となっており、他の2地域に比べ、「良いイメージ」でとらえられている。一方、「公共交通」では、3地域ともに1、2の形容詞対を除いてマイナスよりの評価がなされ、かつ、3地域ではほぼ同じ評価スコアとなっている。

これらの結果をみると、概して、「都市近郊型過疎地域」での地域イメージは他の2地域に比べて良く、「閉鎖型過疎地域」、「地域間接続型過疎地域」の2地域のイメージは類似しているといえよう。これは多分に、地域のおかれている地理的条件が影響しているものと思われる。

次に、3地域での地域差の現われる形容詞対について検討した。コンセプトに対するイメージに地域差がみられたように、形容詞対についても評価スコアがコンセプトごとに異なるが、概略、次のような形容詞対で地域差が顕著に出ている。すなわち「魅力的な一魅力がない」、「テンボがはやいーテンボがおそい」

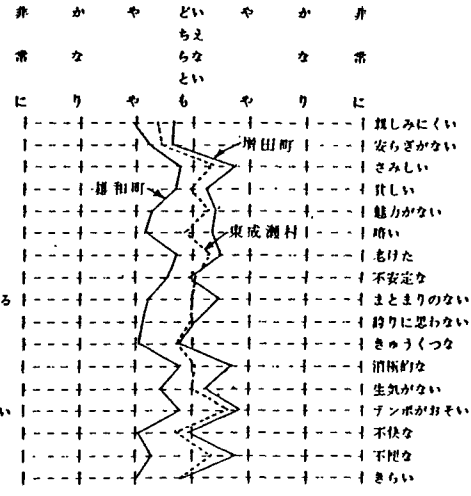
「便利な－不便な」、「明るい－暗い」などである。これらの形容詞対が「過疎の認識度合」を表していることから、一概に「過疎地域」と言っても、その「地域イメージ」は過疎地域の地域構造によって異なり、都市近郊に位置する地域の方が、「過疎イメージ」は強烈ではない。

### 3-2 過疎問題から見た過疎イメージ

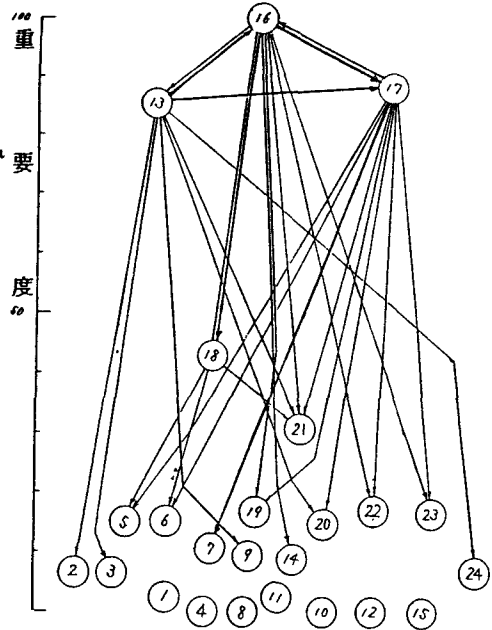
表－1に示すような過疎問題24項目を設定し、3地域別に DEMATEL法を用いて構造化を行った。図－2はその結果の一例（重要度：雄和町）を示したものである。このように構造化した過疎問題を「重要度」から考察すると、3地域共に、「定住意識の変化」、「嫁不足」の重要度が高くなっているが、これらの項目に次ぐ重要度の高い項目が異なってくる。例えば、「生活関連道路の整備の立遅れ」は閉鎖型で重要度が高く、地域間接続型、都市近郊型の順に、低くなっている。また、表－1 評価要因

「高速交通体系の整備の立遅れ」も同様の傾向を示す。しかしながら、「公共交通機関に関する問題」は都市近郊型では高い重要度で、前述の諸問題とは逆の傾向にある。このような過疎問題の地域差は、前述のコンセプト「公共・生活施設」、「道路施設」のイメージの地域差などに端的に現れている。

4・まとめ  
本報告は、過疎地域の地域構造、現在抱えている過疎問題から過疎イメージの差異をとらえようとしたものであるが、地域のおかれている事情によって顕著な違いのあることが明らかとなった。



図－1 公共・生活施設のイメージ



図－2 DEMATEL法による結果の1例